

静岡県の防災・減災に向けた取組み

2017年10月19日
静岡県危機管理部



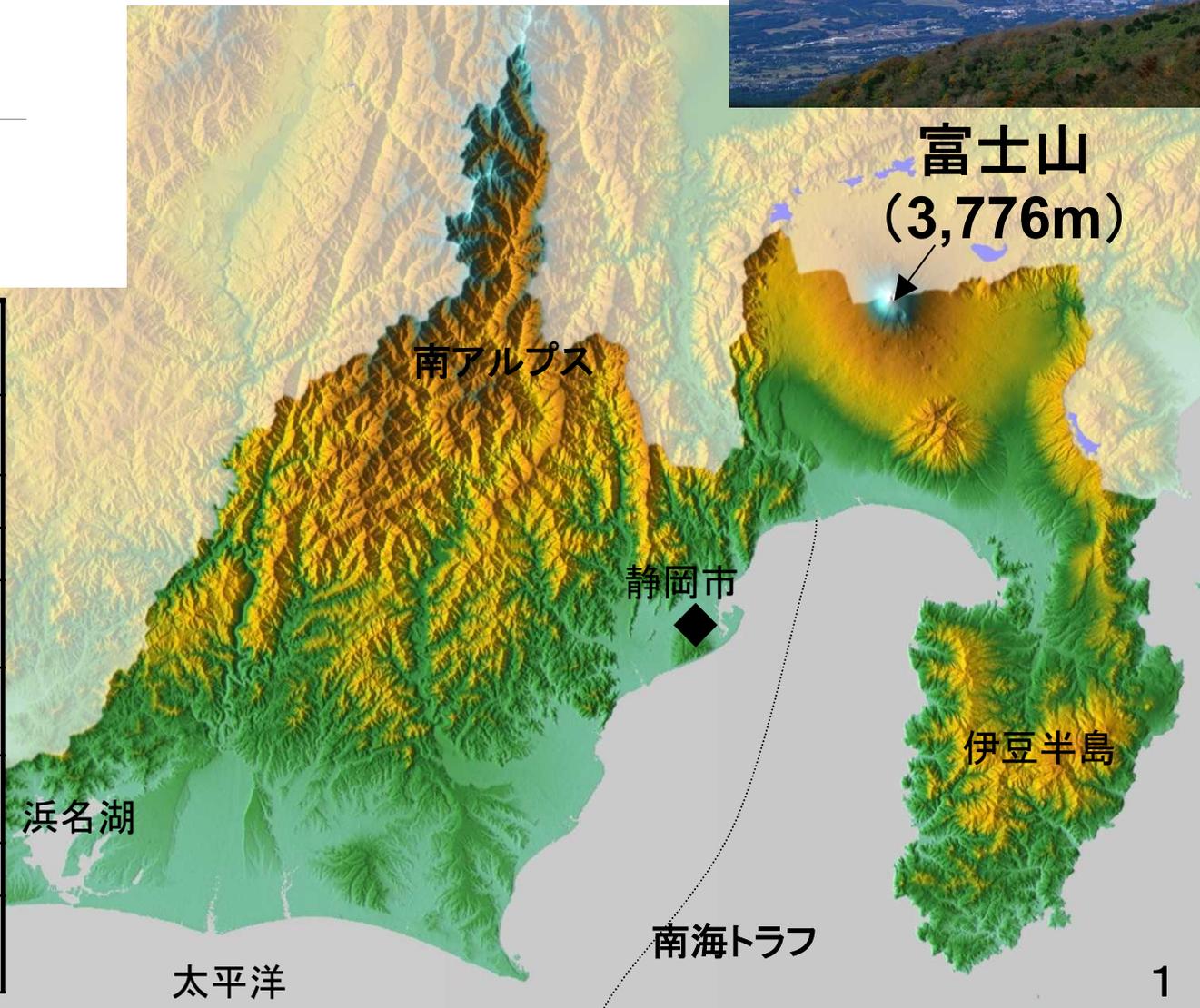
静岡県



静岡県のすがた



富士山
(3,776m)



県名	静岡県 (Shizuoka Pref.)
県旗	
県庁所在地	静岡市
面積	7,780.60km ²
人口	3,683,108人 (2015.7)
平均気温	17.2°C (静岡市, 2010)
最高気温	32.1°C (静岡市, 2010)
最低気温	1.7°C (静岡市, 2010)
年間降水量	2,846mm (静岡市, 2010)

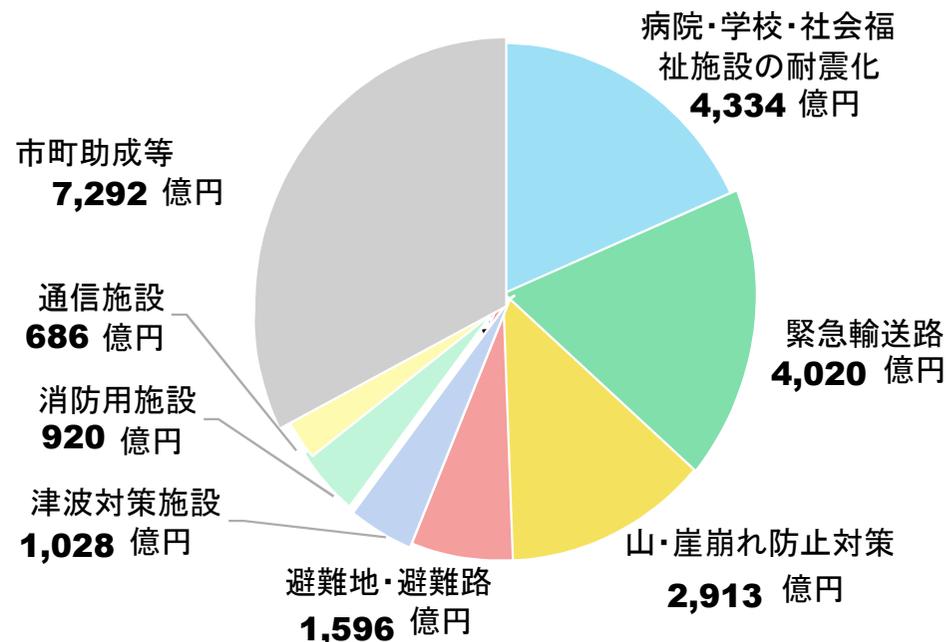
1 静岡県地震・津波対策の経緯

静岡県が地震対策をはじめるときっかけ → 1976年 東海地震説



これまで静岡県が対策に使った経費
2兆2,789億円 (1979~2015年度)

(内訳)



2 全国トップクラスの対策（防災先進県）

震災総合訓練の
県民参加率

25.8%
(全国1位)

木造住宅耐震
補強工事への助成

19,556戸
(全国1位)

社会福祉施設の
耐震化率

93.5%
(全国1位)

防災拠点となる
公共施設の耐震化率

96.8%
(全国2位)



学校の耐震化

学校・幼稚園施設
の耐震化率

99.4%
(全国2位)

3 東日本大震災を契機とした新たな展開



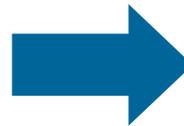
東日本大震災

2011年3月11日、宮城県沖を震源とするMw9.0の巨大地震。（日本周辺における観測史上最大）

人的被害 約22,000人（ほとんどが津波による被害）

経済被害16.9兆円

東日本大震災
平成23年3月11日



対策基礎資料

静岡県第4次地震

被害想定の方針（平成25年6月）

具体的な対策

地震・津波対策

アクションプログラム2013

（平成25年6月策定）

－減災目標－想定される犠牲者を平成34年度までの10年間で8割減少

4 第4次地震被害想定

レベル1の地震・津波	発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波 (駿河トラフ・南海トラフ沿いでは約100年～150年に1回の発生頻度)
対策	防波堤など構造物によって津波の内陸への侵入を防ぐ
レベル2の地震・津波	発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波(千年～数千年の1回程度の発生頻度)
対策	住民避難を柱とした総合的防災対策を構築する

建物被害	人的被害
全壊・焼失 約262,000棟 うち 揺れ 約179,000棟 津波 約 28,000棟 半壊 約208,000棟 うち 揺れ 約117,000棟 津波 約 34,000棟 (全建物棟数:約1,420,000棟)	死者数 約105,000人 うち 津波 約96,000人 建物倒壊 約 7,800人 重傷者数 約 24,000人 軽傷者数 約 50,000人 (対象人口:約3,700,000人)

想定：レベル2(南海トラフ)、陸側(予知なし) ケース①、冬・深夜

5 地震・津波対策アクションプログラム2013

基本目標

想定される犠牲者を2022年度までの10年間で8割減少

基本理念

- ◆人命を守ることを最重視
- ◆ハード・ソフトの両面から充実・強化
- ◆想定される被害をできる限り軽減

減災

事業期間

10年間 2013～2022年度

事業費

(防潮堤・土砂災害防止施設・緊急輸送路の整備等)

約4,300億円

個別アクション(減災を達成するための具体的対策)

全176アクション

6 津波を防ぐ～河川・海岸の対策

防

防潮堤等津波防御施設の整備を進め、津波浸水域や浸水深の減少、避難時間を確保



沿岸部の防潮堤
169km／290.8km
完成防潮堤 (km) ／必要防潮堤 (km)



河口の耐震水門
28基／66基
完成基数／必要基数

7 津波に備える

備

津波避難タワー等を整備し津波避難施設空白域を解消



津波避難タワー

静岡県内に108基 (2017. 4. 1)



津波避難マウント「命山」

静岡県内に13基 (2017. 4. 1)

8 津波から逃げる

逃

津波浸水域にいる全員が、迅速に適切な避難行動を取る

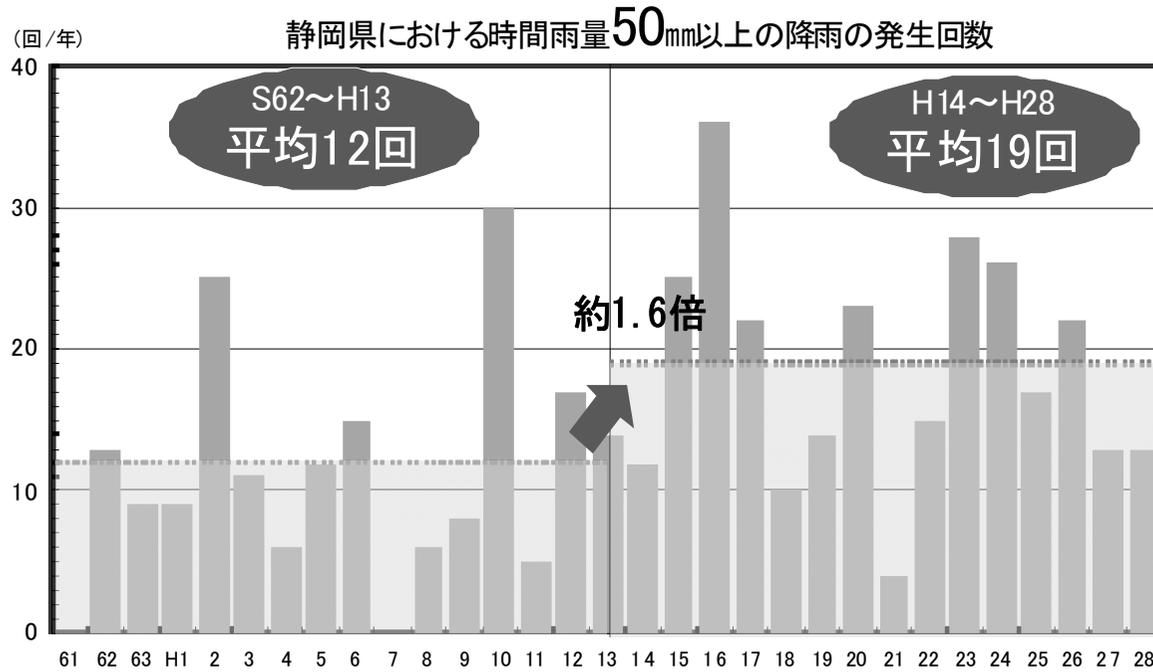


住民主体の主な避難訓練

- 総合防災訓練（防災週間 8月30日～9月5日）延べ約86万人が参加
- 地域防災訓練（地域防災の日 12月の第1日曜日）
延べ約76万人が参加
- 津波避難訓練（津波対策推進旬間 3月上旬）延べ約12万人が参加

9-1 水害・土砂災害～課題

近年、雨の降り方は局地化、集中化、激甚化する傾向



街地の浸水（写真上）土砂災害（写真下）

9-2 水害・土砂災害～対策

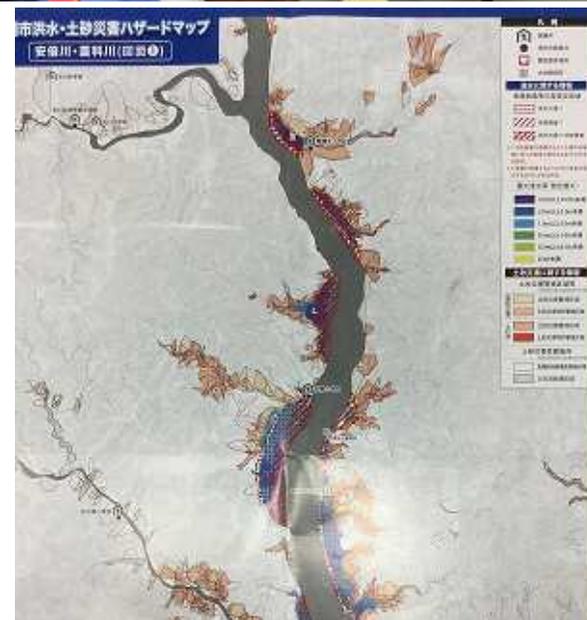
ハード対策とソフト対策を効果的に組み合わせることで対応



脆弱な堤防の機能強化を図るとともに断面を拡大し治水安全度が向上



静岡県の風水害対処訓練



河川洪水ハザードマップ

10-1 火山防災～課題

富士山は日本最大の活火山

記録に残る富士山の噴火

- 781年 噴火
 - 800年 延暦大噴火
 - 802年 噴火
 - 864年 貞観大噴火
 - 937年 噴火
 - 999年 噴火
 - 1015年 噴火
 - 1033年 噴火
 - 1088年 噴火
 - 1435年 噴火
 - 1511年 噴火
 - 1707年 宝永大噴火
 - 1854年 安政東海地震に伴い噴火
- 計13回



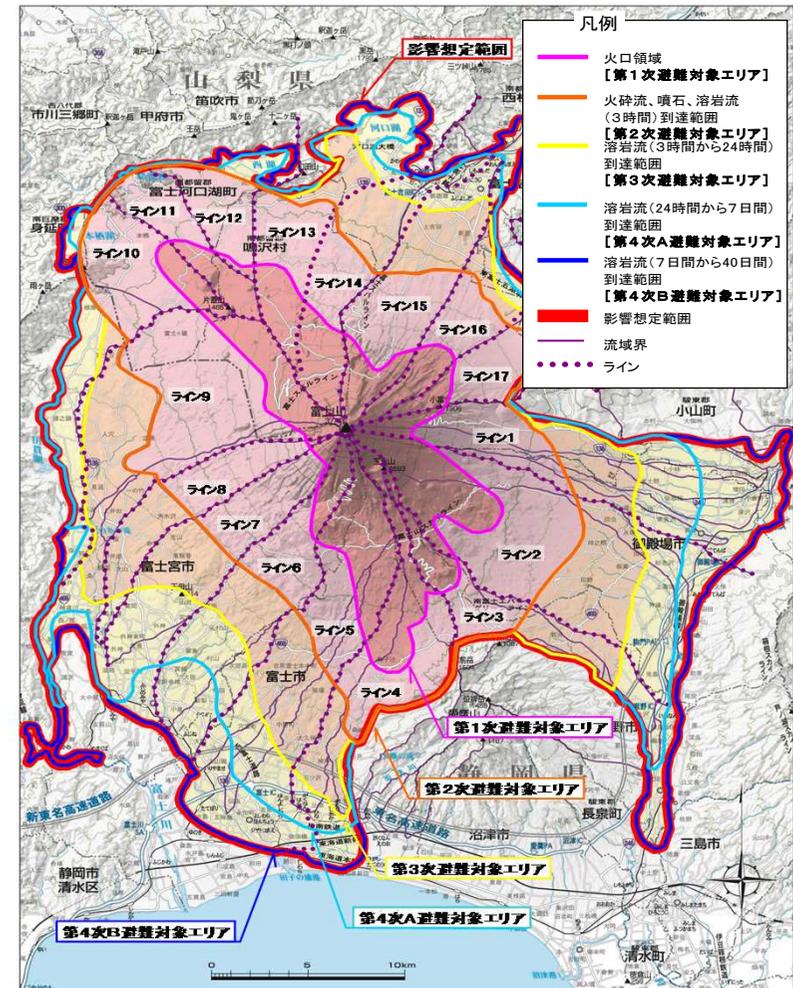
10-2 火山防災～対策

・住民の安全対策

⇒富士山が噴火した際に、住民避難の基本的な考え方や円滑な避難を整理した「富士山火山広域避難計画」を、静岡県ほか周辺自治体が協同して策定

・登山者の安全対策

⇒噴火発生時に登山者に緊急情報を伝達する登山届アプリの活用や円滑な避難ができるよう避難訓練を実施



富士山火山避難対象エリア図

命を守る危機管理がすべてに優先する

富国有徳の理想郷 “ふじのくに”

自立

「富」豊かさ

「士」徳のある人材

「命」を守る危機管理

ご清聴
ありがとうございました。